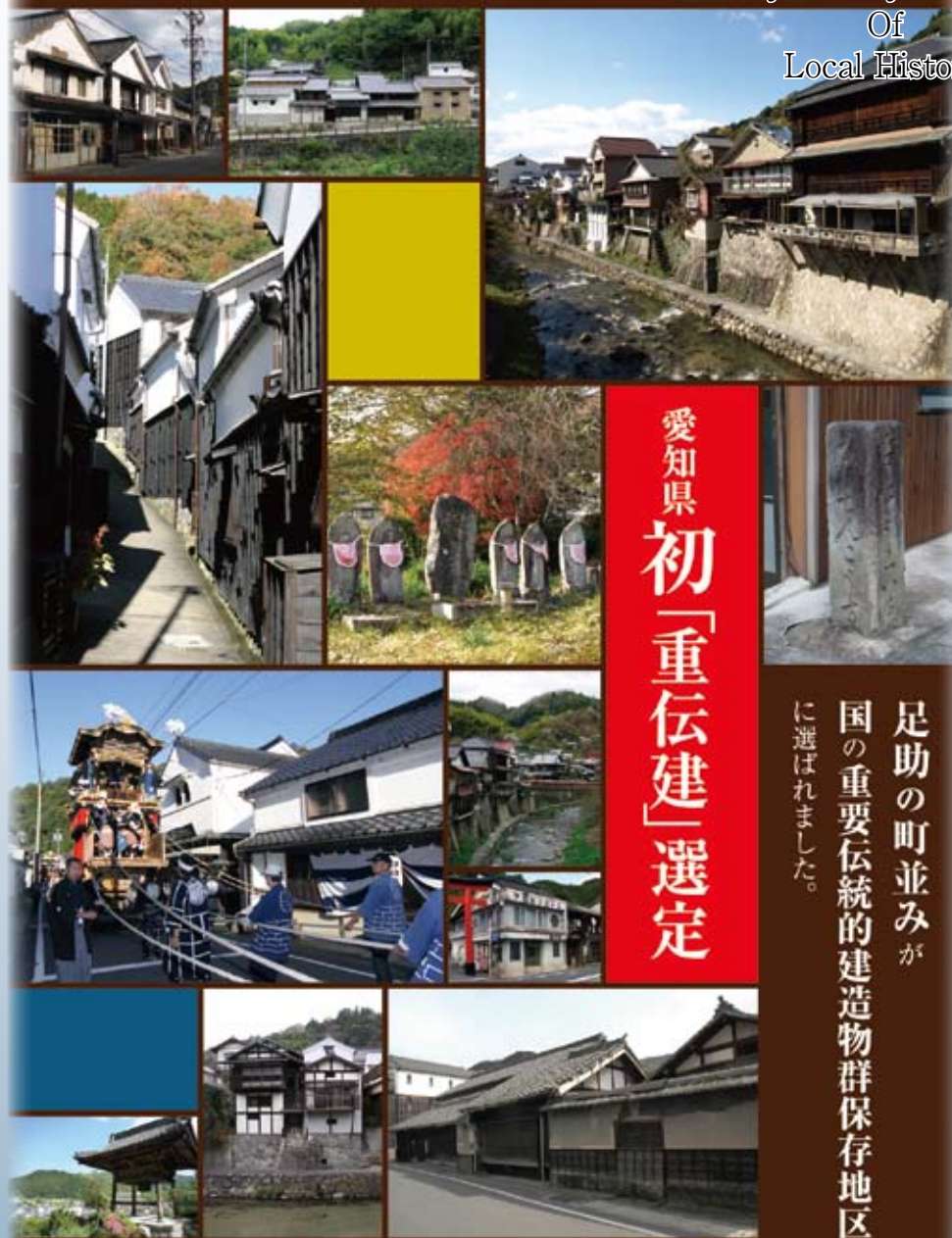


Toyota City Museum
Of
Local History



豊田市教育委員会 平成 23 年 4 月

目 次

・歴史的町並みの保存とまちづくりー伝統的建造物群保存地区制度ー	2
・資料館企画展「古い道具と昔の暮らし～見直そう！昔の暮らし～」	2
・民具調査だより-3「足踏み脱穀機ーガーコン」	3
・平成 22 年度文化財保護事業報告	4
・平成 22 年度豊田市郷土資料館 子ども講座年間報告	5
・平成 22 年度埋蔵文化財調査の概要	6
・平成 22 年度豊田市近代の産業と暮らし発見館事業報告	7
・文化財シリーズ 76 市指定文化財 良屋岡本家住宅	8
・資料館NEWS『豊田市のあゆみ』発刊	8

歴史的町並みの保存とまちづくり

—伝統的建造物群保存地区制度—

足助の歴史を活かしたまちづくりを進めるために誕生した豊田市足助伝統的建造物群保存地区が、4月15日の国の文化審議会において、「重要伝統的建造物群保存地区に選定」の答申を受けました。足助は三河と信州を結ぶ伊那街道沿いに栄えた商家町で、「伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」と判断されたため、愛知県初の重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）に選定されました。

重伝建地区に選定されると、町並み保存整備に対して国から財政的支援や技術的支援などを受けることができます。このため、歴史的町並みを保存しながらまちづくりを行うための最も有効な手段といわれています。足助では、平成17年度より地元組織の足助まちづくり推進協議会を中心として、地域住民と行政が共働で重伝建地区の選定に向け取り組んできました。重伝建地区誕生は、昭和50年代から始まった住民による足

助の町並み保存のひとつの区切りとなりました。

今回の答申を受け、足助の町並みでは、住民が家の前に市が配布した記念ポスターを貼り、住民や観光に訪れる方にお知らせしています。

今後、足助の歴史的町並みの保存とともに、定住促進や通年型観光地を目指すことで地域の活性化を図ります。また、これと並行して電線類の地中化や下水道整備など、住民が快適に生活することができるまちづくりを住民と行政が一緒になって取り組んでいきます。



資料館企画展

古い道具と昔の暮らし ~見直そう！昔の暮らし~

みなさんは「古い道具は使いにくい、昔の暮らしは大変だ」というイメージをお持ちではないでしょうか。

実は古い道具にはさまざまな工夫がされ、昔の人々の知恵が詰まっています。そして、昔の暮らしは省エネで、環境にやさしいエコな生活でした。

現在、豊田市郷土資料館で開催中の企画展「古い道具と昔の暮らし～見直そう！昔の暮らし～」では、そんな昔の暮らしに注目しました。期間は5月21日（土）から9月4日（日）です。

郷土資料館のロビーでは、石臼や薬研、杵など昔の道具を実際に体験することができます。さらに、昔の作業着であるもんぺを身につけることもできます。

郷土資料館の第二展示室では、昔の暮らしの中で使われていた様々な道具を展示しています。道具から昔の暮らしを想像してみてください。

郷土資料館の敷地内にある民俗資料館では、囲炉裏を囲み、箱膳で食べた昔の食卓が再現され、昔にタイ

ムスリップさせてくれます。

今回の展示を通じて、昔の人々の生活の知恵や工夫、環境に優しいエコな暮らしを実感し、今の私たちの生活を見直す機会にいただけたら幸いです。



展示の様子

足踏み脱穀機—ガーコン

はじめに

豊田市内各地区の資料館で民具調査を行なっていると実に様々な道具に出会います。中でも種類と数の多いのが農業と養蚕に関する多様な物たちです。今回は、農作業の中でも収穫時の稲扱き作業に登場するスター“脱穀具”に焦点をあててみたいと思います。

千歯扱きと足踏み脱穀機

刈り取られた稲は、脱穀（穂から穀物の粒をとる事）し精米され、お米になります。脱穀をする原初の道具は『カラハシ』とか『コキハシ』と呼ばれる竹を割った2本の棒の間に稲穂をはさみ、手で扱き落とすという道具です。その後、元禄年間に竹の歯を並べ歯の間に穂をはさんで脱穀する『千歯扱き（千把扱き）』が発明されました。当初は麦用の道具でしたが鉄製の歯が用いられるようになり、稲の脱穀にも使われるようになりました。『センバコキ』という呼び名は「一日に千把も脱穀できるから」とか「たくさんの歯を持っているから」ともいわれています。

千歯扱きの出現で、稲扱きの作業効率が格段に上がりますので、この便利な道具は急速に日本各地に広まりました。そのため、カラハシでの脱穀仕事を請け負っていた後家さんたちの仕事が減ってしまいましたので千歯扱きは別名「後家倒し」「後家泣かせ」とも呼ばれたようです。200年近く愛用された千歯扱きも、明治43年山口県の福永章一によって発明された足踏み脱穀機の出現と、数々の改良型の普及で脱穀の役目を渡しますが、大切な種籾をとるときには千歯扱きを使いました。市内北部では、千歯扱きを『コバシ』と呼ぶ所もあります。コキハシから転化したものでしょう。

機械化始まる

大正5年以降、全国に広まり戦後もしばらく使われた足踏み脱穀機は、わが国の農業シーンで初めて出現した“機械”でした。直径400～600ミリの扱胴に逆U字型の針金を取り付け、踏み板を踏んで扱胴を回転させます。稲穂を一把持ち、穂先を扱胴に当て、回しながら脱穀します。足で踏み胴を回転させると、脱穀機全体からガーコン、ガーコンというなり声のような音が聞こえてきます。この音から脱穀機を別名『ガーコン』と呼びました。

関東地方では、「足踏み輪転機」とも呼ばれました。



●千歯扱き [稲武郷土資料館所蔵]

W625ミリ H665ミリ D790ミリ



●足踏脱穀機 [稲武郷土資料館所蔵]

W718ミリ H650ミリ D750ミリ



●前板部にプリント—豊年ダイヤモンド 愛知縣豊川町 株式会社共榮社とあります。

市内各地区の資料館に展示・収蔵されている足踏み脱穀機には他に「シート式 農益社本店」「アンラク 親農社 愛知南加木屋」「大竹式優勝號 名古屋市外」などの木製やホーロー製の前板を見ることができます。

(東海民具学会 岡本大三郎)

平成22年度文化財保護事業報告

■ 文化財保護事業

1 文化財保護審議会 3回

答申2件・諮問2件

文化財防火デー：隣松寺・足助八幡宮・妙昌寺・
永澤寺・猿投神社

2 伝統的建造物群保存地区保存審議会 4回

答申2件・諮問2件

3 埋蔵文化財 (6頁参照)

4 文化財指定等

・伝統的建造物群保存地区の決定

地区：足助伝統的建造物群保存地区

決定日：平成22年12月28日

・指定解除：「白山神社のヒノキ」

解除日：平成22年6月3日

5 文化財等保存維持・修理補助事業

・有形民俗文化財保存修理7件（足助八幡宮本殿、莚屋岡本家住宅ほか）

・史跡名勝天然記念物保存整備事業 2件

（八柱神社の樟、教聖寺のイチヨウノキ）

・有形民俗文化財保存維持16団体（挙母祭山車ほか）

・無形民俗文化財保存維持32団体（棒の手・はやしほか）

・伝統的郷土芸能保存維持23団体（西山万歳ほか）

・伝統的郷土芸能保存修理2団体（霧山祭り囃子ほか）

・郷土の先人顕彰活動5団体（松平親氏公顕彰会ほか）

総数87件

6 史跡・建造物等整備・修理

・旧紙屋鈴木家住宅応急修繕

・史跡看板更新（足助八幡宮、神郷下遺跡ほか）

・曽根遺跡公園樹木伐採

7 その他

・伝統的建造物群保護行政研修会実施（文化庁主催）

（6月30日～7月2日） 66人

・カモシカ死体処理16件

■ 郷土資料館事業

1 展示・入館者数

平成22年度入館者数 17,491人

特別展「祝いー宴・贈り物・芸能ー」

1月29日～3月13日 4,361人

企画展「古い道具と昔の暮らし

～電気のなかった頃の暮らし～」

6月19日～10月17日 6,495人

企画展「徳川十六将・榊原康政」

10月26日～11月28日 1,556人

ミニ企画展「郷土資料館のひなまつり」

2月5日～3月13日 4,086人

喜楽亭企画展「喜楽亭のひなまつり」

2月19日～3月27日 1,578人

2 資料調査

とよたの祭事記録（「稲武の打ち囃子」）

民具資料整理（小原郷土館はじめ5カ所）

出土遺物整理（保見文化財倉庫はじめ2カ所）

3 資料収集・複製・修復

「勘八峡筏流図」（中村寿一画）修復

風外本高筆「鐘馗図」軸購入

「加茂郡小原千洗村文書」購入

4 資料等貸出件数

他館・機関への資料貸出14件184点

写真貸出 82点

5 講座ほか（5頁参照）

「こどもの日によろいを着てみよう」「まがたま作り」

「史跡めぐり」「花餅作り」「おこしもの作り」「特別

展開連講座」など

10講座 798人

6 豊田市近代の産業とくらし発見館（7頁参照）

7 その他

・（仮）豊田市ふるさと歴史館基本構想の検討

・スクールサポート事業の推進



①資料館・遺跡見学サポ
ート84校 5,589人

②出前授業・資料貸出サ
ポート29校 3,131人

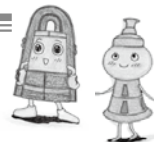
・地域学習サポーターの
育成

①藤岡地区実施8件

②小原地区募集開始

10人登録

子ども講座年間報告



豊田市郷土資料館では毎年、子ども向けの歴史体験講座を開催しています。どの講座も子ども達に歴史や郷土の風習を、楽しみながら学んでもらうことを目的としています。5月5日に開催された「君も武将になれる！よろいを着てみよう！」では、子ども達は、鎌倉・戦国時代の鎧兜よろいかぶとのレプリカを実際に身につけることで、見ただけでは分からない鎧兜の重さや動きにくさを体感しているようでした。



7月の「親子まがたま作り」では、滑石かつせきという柔らかい石をサンドペーパーで削ってまがたまを作りました。



子ども達は、市内から出土したメノウや碧玉で作られた本物のまがたまや、展示室にある大きな「子持勾玉こもちまがたま」を見て、自分オリジナルのまがたまをデザインするのに役立っていました。

8月の「親子史跡めぐり」では、足助の町並みと市内の史跡をめぐりました。国指定の重要文化財である足助八幡宮本殿や県指定建造物の足助中馬館、足助城、県指定史跡の池田1号墳、市指定史跡の曾根遺跡などを見学しました。



近くに住んでいても、知らない史跡や文化財が沢山あることに、参加した子ども達

は驚いていました。

12月の「親子花もち作り」では、お正月の飾りである「花もち」を作りました。餅つき機で、赤・白・黄・緑の4色の餅をつきますが、色粉を入れるとだんだんと餅に色がついていく様子に、子ども達は興味津々でした。



2月の「親子おこしもの作り」では、ひな人形にそなえる郷土のお菓子「おこしもの」を作りました。おこしものは米粉を熱湯でよく練り、生地を作ります。



色粉を入れて練った米粉を、おこしものの型に合うように置いてから、生地を上から押して入れます。子ども達はそれぞれの型に合わせて、きれいな模様になるように桃・緑・黄色の米粉を置く位置を工夫していました。蒸しが上がったおこしものは温かくてとてもおいしく、大人気でした。

これからも郷土資料館では、子ども達が自分の手で作ったり、本物の文化財を見たり、味わったりしながら楽しく歴史と触れ合える講座を開催していきたいと思っています。

平成23年度豊田市郷土資料館 子ども講座の予定

- 7月 親子まがたま作り・古代の織物作り
- 8月 親子史跡めぐり
- 12月 親子花もち作り
- 2月 親子おこしもの作り

※日程の詳細・申込方法については広報とよたに掲載予定です。

平成22年度埋蔵文化財調査の概要

○有無の照会

住宅建設・宅地造成・開発の事前調査などに伴って文化財課へ埋蔵文化財の有無が照会されます。近年の照会件数は平成18年度568件、平成19年度728件、平成20年度726件、平成21年度は781件です。平成22年度は903件があり、過去4年間に比べてかなり多くなっています。この中で遺跡(埋蔵文化財包蔵地)に該当したものは243件ありました。地区別では表1のような内訳で、昨年同様に猿投・高橋・挙母地区が多く、加えて藤岡・足助地区で増加しています。また、内容別では住宅建設、電信電話・ガス施設の事前調査、不動産鑑定などが多くみられます。

地区	猿投	挙母	高橋	松平	高岡	上郷
件数	129(29)	239(71)	152(51)	25(1)	55(2)	34(12)
地区	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
件数	75(24)	26(2)	92(21)	17(1)	32(13)	27(16)

表1 () は埋蔵文化財に該当した件数

○届 出

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	11	1	伊保遺跡・亀首遺跡
挙母	21	2	瑞穂遺跡・上原遺跡
高橋	15	1	高橋遺跡・寺部遺跡・谷耳太南遺跡
松平	0	0	
高岡	1	0	中町十三塚
上郷	4	1	元屋敷遺跡・鶯鴨城跡
藤岡	9	1	新左屋敷遺跡・辻貝戸遺跡
小原	1	1	大平本城跡
足助	10	2	宮平遺跡・宮ノ後遺跡・皿坂遺跡
下山	0	0	
旭	2	1	南貝津遺跡
稲武	5	2	中村遺跡・清泰地遺跡
計	79	12	

表2 地区別届出件数一覧

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。22年度は民間開発事業79件(前年比+24)、公共事業12件(前年比-5)があり、民間開発事業による届出がかなり増加しています(表2)。昨年度と同様に旧市内の挙母・高橋・猿投地区が多く、旧町村地区では藤岡・足助地区が多くなっています。遺跡別では瑞穂遺跡(瑞穂町・元宮町)が8件で最も多く、次いで高橋遺跡(上野町・高上)・寺部遺跡(寺部町)・伊保遺跡(保見町)・宮ノ後遺跡(足助町)での届出が多くなっています。また、事業別の内訳では民間開発の

うち半数が個人住宅の建設や宅地造成によるもので、ほかに事業系建物の建設・通信塔の建設等がありました。公共事業は道路工事・河川工事などによるものでした。これらへの対応は[工事立会]72件、[確認調査・試掘調査]11件、[本調査]3件、その他5件でした。また、表3・4は調査を実施した遺跡の概要です。

遺跡名(所在地)	調査原因	調査面積(㎡)	主な遺構
寺部遺跡(寺部町)	住宅建設	78	石積遺構
高橋遺跡(上野町)	住宅建設	57	掘立柱建物・溝
今町宮ノ後遺跡(今町)	河川工事	102	杭列

表3 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名(所在地)	調査原因	調査面積(㎡)
宮ノ後遺跡(足助町)	消防設備設置	7
寺部遺跡(寺部町1)	集合住宅建設	13.9
今町遺跡隣接地(今町)	寺院建設	20
宮ノ後遺跡(足助町)	事業用建物建設	10.2
皿坂遺跡(近岡町)	宅地造成	52
中村遺跡(桑原町)	住宅建設	6.3
池田古墳群試掘(加納町)	事業用地造成	435
花園地区試掘(花園町)	区画整理	93.1
堂外戸遺跡(市木町)	住宅建設	5
仲田遺跡(岩神町)	病院建設	5
谷耳太南遺跡(市木町)	住宅建設	7
亀首遺跡(亀首町)	住宅建設	5.6
長田館跡(司町)	住宅建設	22

表4 確認調査・試掘調査を実施した遺跡一覧

この他、届出のない電柱工事など軽微な工事に伴う立会を140件余り実施したほか、開発事前協議・土地利用対策会議で遺跡の有無確認をしたものが24件ありました。また、下山地区の遺跡詳細分布調査を実施しています。

○発掘調査報告書刊行

市内遺跡調査事業を対象とした『平成21年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』を作成したほか、豊田市埋蔵文化財調査報告書第45～49集として『寺部遺跡』・『亀首遺跡』・『宮ノ後遺跡』・『上万場遺跡』・『水汲遺跡』を刊行しました。

平成22年度

豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告

豊田市近代の産業とくらし発見館は、昨年11月に開館5周年を迎え、特別展も開催しました。この中でこれまでの5年間で行った企画展示やものづくり講座、見学会を振り返ったり、来館者に記念のタペストリーを織ってもらったりしました。

とよた発見講座

「昔ながらの味をぐるグルメぐる旅」

豊田市の南部には、昔ながらの味を守り育てている地場産業がいくつかあります。平成22年度のとよた発見講座では、高岡・上郷地区の地場産業の工場を中心に見学会を実施しました。高岡地区では、吉原町にある明治3年創業の「碧園お茶の純平」にうかがいました。第2代目山内純平氏が大正9年に考案した三河式てん茶製造機械は、京都宇治でも賞賛を受け、その後も地元の製茶業の伝統を守り続けています。

また、上郷地区では枅塚西町にある野田味噌商店を訪ねました。戦時中は海軍の飛行場があったところで、その兵舎や上郷中学校の旧校舎などを利用した味噌蔵は、いかにも昔ながらの味を育んでいるという風情が漂っていました。



野田味噌商店の味噌蔵

平成23年度事業計画

本年度も3回の企画展と様々なものづくり講座やワークショップなどを計画しています。すでに4月19日から「まゆまつり2011」を開催中で、今回は、発見館の建物のもととなっている蚕業取締所にスポットを当てた資料を展示しています。その後の企画展としては「百々貯木場と今井善六」(7月12日～10月2日)、「白

瀬中尉の南極探検(仮称)」(1月中旬～3月中旬)を順次開催する予定です。今年度も講座やワークショップ、見学会などは「広報とよた」やホームページなどを通じて内容紹介・参加募集しますので、ぜひご参加ください。

平成22年度の事業実績

年間入館者数 14,647人

企画展

「発見館まゆまつり2010」

(期間：4月20日～7月25日、来館者数4,539人)

「とよたに電燈が灯った日」

(期間：7月26日～10月17日、来館者数3,747人)

「拳母駅90年の軌跡ととよたの街」

(期間：10月22日～1月30日、来館者数3,907人)

ものづくり講座等

母の日のまゆ花／生糸のストラップ／発電にチャレンジ／人造石ってなあに？／あいの生葉で草木染め／MYオカリナ作り／まゆの光るX'masツリー／干支まゆ人形・ウサギ／動く電車を作ろう／押し絵のお雛さま／線香作り

ワークショップ

春休みものづくり体験「ガラ紡糸のコースターづくり」／折り紙で作る五月飾り／まゆ指にんぎょう／夏休みものづくり体験「うちわ作り」／5周年記念「みんなでつなげる手織りのガラ紡タペストリー」／冬休みものづくり体験「干支うさぎの絵馬作り・羽子板作り・うぐいす笛作り・干支うさぎのクリップ作り」

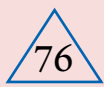
見学会

今なお残る養蚕農家／カイコの里・稲武／発電所を見に行こう！／豊田市駅発 拳母駅行の旅／昔ながらの味をぐるグルメぐる旅

その他

出前講座「ふれ愛フェスタ2010」／特別展「喜一郎と寿一」in参合館／とよたまちパワーフェスタ2010(秋)(春)／出前講座「下山探訪講座 線香づくり」／出前講座「干支まゆ人形・ウサギ」inあすて／発見館deかみしばい／とよたまちなかウォーキング

文化財シリーズ



市指定文化財

荻屋岡本家住宅

関係資料として歴史的・民俗的価値が高いことから、平成21年に主屋・塩座・土蔵・離れ座敷の4棟が有形民俗文化財に指定されました。江戸時代の足助は、伊那街道（中馬街道）の重要な中継地であり、商家町あるいは近隣の在郷町として栄えました。その足助の中でも、荻屋岡本家住宅は、江戸時代後期から明治時代にかけて、足助屈指の塩問屋として大いに賑わいました。指定された4棟のうち、塩座は足助に入ってきた塩を、統一された量に詰め替える作業を行うための建物でした。各地から運ばれてきた塩1俵の重さは様々で、馬の背に載せて流通させるには、1俵が同じ重さでなければ、具合が

悪かったのです。詰め直しされた塩は、「足助塩」「足助直し」といわれたため、塩が運ばれた信州の伊那地方では、「足助では塩がとれるのか」と思っていた人がいたとかいないとか…。

現在、荻屋岡本家住宅の塩座は保存修理され、金曜～月曜・祝日は「塩座」という名前で交流施設として活用されています。町並みの散策途中に塩の道の名残を残す「塩座」に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

現在、荻屋岡本家住宅の塩座は保存修理され、金曜～月曜・祝日は「塩座」という名前で交流施設として活用されています。町並みの散策途中に塩の道の名残を残す「塩座」に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



資料館NEWS

『豊田市のあゆみ』発刊

平成23年3月に新修豊田市史概要版『豊田市のあゆみ』を発刊しました。

豊田市は平成17年の合併により、ものづくりを中心とする産業都市でありながら、森林をはじめとする豊かな自然に恵まれた都市となりました。そこで、市民の間で新しい豊田市への興味、歴史や伝統文化への関心が高まったことから、新しく豊田市史を編さんすることとなりました。今回の概要版は、『新修豊田市史』（全25巻 予定）の編さんに先立ち、豊田市の自然、現況、文化財についてやさしくまとめたもので、写真や図表を多く用いて分かりやすく説明されています。手に取りやすく、新しい豊田市を知るには最適の本です。自分の住んでいるところの歴史を知れば、見慣れた風景も変わった見え方をして、今後の生活がより豊かで、面白いものになると思います。是非ご一読下さい。



●購入について

体裁：B5サイズ／ソフトカバー／約500ページ
オールカラー
価格：2,100円

●販売場所

豊田市中央図書館

住所：西町1-200
電話：0565-32-0717
受付時間：10:00～19:00(火～金曜日)
10:00～18:00(土・日・祝)
(休：月／毎月第4金曜日)

豊田市史編さん室

住所：陣中町1-19-1(旧図書館内)
電話：0565-36-0570
受付時間：8:30～17:00(休：土／日／祝)

豊田市郷土資料館

住所：陣中町1-21
電話：0565-32-6561
受付時間：9:00～17:00(休：月)

豊田市近代の産業とくらし発見館

住所：喜多町4-45
電話：0565-33-0301
受付時間：9:00～17:00(休：月)

豊田市民芸館

住所：平戸橋町波岩86-100
電話：0565-45-4039
受付時間：9:00～17:00(休：月)

利用案内

開館時間 9:00～17:00
休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）
入場料 無料（特別展開催中は有料）
交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分
駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.76■

平成23年6月15日発行
編集・発行 豊田市郷土資料館
〒471-0079 豊田市陣中町1-21
☎ (0565) 32-6561 FAX (0565) 34-0095
E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL: <http://www.toyota-rekihaku.com>
※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。